風土記の丘の花だより344

今、そしてこれから見られる植物（2026年10月31日）

先週末から週明けにかけては、けたたましい雨が降りましたね。市内でも各地で冠水して、雨量の多さに驚きました。読者のみな様方には被害に遭われませんでしたか？いよいよ１０月も終わり、今年もあとふた月になりました。早いものです。



前山Ａ地区の坂道沿いでセンブリが咲いています。足もとの株は草刈りの影響でか、丈は短いですが。少し見上げるとササの中に丈の高い株がたくさんのつぼみを付けています。これをご覧になる頃にはたくさんの花が咲いていることでしょう。センブリという名前は千回振り出しても（煎じても）効き目があるという事から付けられました。それほど薬効があるということですね。今でもセンブリ茶などとして飲まれますが、かなり苦いと聞きます。良薬口に苦しですね、これもみんなで守っていきたい植物の一つです。



万葉植物園で細々とシラヤマギクの花が咲いています。咲く年と咲かない年があって、今年は運良く１本だけ花が見られました。昔、「うはぎ」と呼ばれていたヨメナ（嫁菜）に対して「婿菜・むこな」と呼ばれることもあります。キクの花は舌状花という花びらを持つものと、花びらを持たない筒状花からなりますが、シラヤマギクは舌状花が少なく、花びらが隙間だらけのような印象があります。普通は１メートルほどに伸びますが、ここの株は栄養状態がよくないのか、こぢんまりと生えています。



あちこちでセイタカアワダチソウの黄色い花が咲いています。何十年か前は空き地や休耕田などに群生し、辺りが真っ黄色に見えることもありましたが、最近はずいぶん減りました。といってもやっぱりどこにでもたくさん生えていて、だれでも知っている厄介な雑草に変わりはありません。かわいそうに、これまで花粉症の原因という濡れ衣を着せられてきましたが、この花は虫媒花、花粉は虫が運んでくれるので少々の風では花粉をとばすことはありません。



フェンスや他に木に巻き付いたノブドウの実がきれいに色づいてきました。白、水色、さらには青から赤に近い紫まで、それぞれに微妙に違う色で、本当に宝石のようにきれいです。食べてみたくなりますが、中には虫こぶもあるので、やめた方がいいでしょう。虫こぶとは、ハエやハチなど小さな虫が作るもので、葉や実などが変形し、ふくらみ、中には小さな幼虫が入っています。眺めるだけにとどめて、俳句や絵手紙などで楽しんではいかがでしょう。　松下